

2007 8/12 読書新聞

夏のコツ〜イ 1冊

ローベルト・クルツ著『資本主義黒書』

新曜社、上巻6600円／下巻4400円 渡辺一男訳

佐藤 卓己

京都大学准教授・メディア論



こわい本といえは、『教育黒書』
『マスコミ黒書』『テレビ黒書』な
ど「黒書もの」だろう。近年ではS
・クルトワ他『共産主義黒書』（恵
雅堂出版）が「善人」顔した非人道
を暴いて世評も高い。だが、夏休み
の読書としては「過去の遺物」の犯
罪はファシズムの記憶で中和されが
ちだ。秋に読むべき本だろう。

だとすれば、現在進行形の『資本
主義黒書』だろうか。「全体主義的
な世界市場Ⅱ民主主義体制」の成立
史を描いたドイツ読書界の話題作
だ。ホロコーストをナチズムの特
性でなく資本主義の普遍性から考察
している。それにしても、「黒書も
の」の本当の怖さは、批判対象の暗
闇よりもそこから逃れる出口の欠如
にあるというべきだろう。